

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 久居農林高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>少人数教育を生かし、地域に根ざした専門高校を目指します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業」「家庭」の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成します</li> <li>・「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献します</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自他共に認め合い、自己の成長を実感しながら、将来の地域を担いかつ地域のリーダーとなる意欲を持った生徒
	ありたい 教職員像	各担当教科の専門性を高めるとともに、授業形態や授業内容等の工夫・改善を行い生徒の成長に喜びを感じ、充実感を持って、丁寧かつ柔軟に業務に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒 安心安全で楽しく過ごせる学校、自己の存在が実感できる学校、わかりやすい授業、進路希望の実現</li> <li>○保護者 子どもを成長させてくれる信頼できる学校、進路希望の実現、職業観・勤労観および基本的な生活マナーの定着</li> <li>○地域住民 地域に開かれた学校、地域を担いかつリードする人材を育てる学校、基本的な生活マナーの定着</li> </ul>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者 学力定着、進路希望実現、卒業後のケア 生徒が安心・安全に学べる環境</li> <li>○地域住民・産業界 教育資源の活用、知識や技能・意欲を持った生徒の育成、基礎学力</li> <li>○近隣保・幼・小・中・高校等 教育資源の活用、連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者 生活指導等への理解と協力、学校行事への参加、生徒の基本的な生活習慣の確立</li> <li>○地域住民・産業界 教育方針等の理解、学校経営への協力と参画</li> <li>○近隣保・幼・小・中・高校等 教育方針等の理解と協力、連携事業の強化</li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きやすい環境づくりについてより一層配慮いただき、教職員が学校の運営に十分に取り組めるように進めていただきたい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策に時間を費やすことが増え、過重労働となっているのではないか。</li> <li>・進路ガイダンスを通して、生徒たちへの職業への興味付け等、様々な面で進めてもらっている。生徒間のグループワークも効果が出ている場面も見受けられる。今後も、自己肯定感を高めていく必要がある。</li> <li>・全校集会は、生徒たちの成長を促す側面もある。新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、計画的に進めてほしい。</li> <li>・外部の方からも、ここ最近は生徒から挨拶をしてもらえることが多くなったと聞いている。PTA役員の方々にも登校指導に参加していただき、生徒たちへの声かけをしていただいている。今後も、継続して取り組みを進めていくことは重要である。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の地域連携を代表する取り組みである「わくわく農林塾」は、高校生が同じ地域の小学生等とともに活動したり、自ら学んだ内容を教えることを通じて、学びの理解を深めるとともに、小学生等が高校での学びを身近に感じることでできる機会である。今後も農業学科、家庭学科とも、取り組みを進めていくことが大切である。コロナ禍であることを踏まえて適切な計画を立て、学校として地域連携を進めていきたい。</li> <li>・令和3年度から進めている榊原地域との連携事業については、生徒が地域の方々や職業人など多様な人々とかかわりながら、学習活動を推進できる貴重な機会である。本年度はさらに地域の方や行政の方と連携し、地域の活性化や課題解決に取り組む学習活動を拡充させたい。その際、生徒たちの活躍を情報発信し、PRにも努めたい。</li> <li>・進路ガイダンスは生徒の進路希望を実現するうえで大切な取り組みである。コロナウイルス感染症対策でオンラインでの対応になる場合もあるが、適切に実施していきたい。日ごろから、ICTを活用し慣れることが大切である。</li> <li>・卒業後すぐに社会へ出て行く生徒が多いことから、生徒が基本的な生活習慣の「あいさつ」をきちんと身につけることができるよう、今後も重点的に取り組みたい。さらに、命とからだを大切にす教育活動を進めるため、生徒向けの研修会も継続して取り組みたい。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の各種研修会は、自らの指導力向上、教職員としての使命と責任を自覚するためにも継続して実施したい。(ICT研修、コンプライアンス研修等)</li> <li>・学校での情報共有は、極めて重要である。組織として動くために情報共有を適切に行い、生徒により丁寧かつ柔軟な指導を行っていくことが大切と考える。</li> <li>・情報発信はHPや新聞報道を活用して継続的に取り組む。全コースが取り組めるようにしたい。</li> <li>・榊原地域との地域連携は、学校としての特色を出しながら、生徒たちにとってプラスの成果が出るよう取り組みを進める必要がある。地域に貢献し信頼される学校づくりについて全教職員で共有し進めていきたい。</li> <li>・学級減が進む中、今後の学校のあり方について検討していきたい。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自ら学ぼうとする意欲を高めるため、自らが課題を設定し解決する学習活動を推進する。</li> <li>・生徒の確かな学力の向上を図るため、教員が積極的に授業改善を進め、「わかる授業」「興味を喚起する授業」を行う。</li> <li>・生徒の進路希望を実現するため、チーム久居農林で組織的に進路指導をすすめる。あらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え、就職・進学だけでなく、その先の社会活動を見通した進路指導を推進する。</li> <li>・農業クラブ活動や家庭クラブ活動を通して探求活動を推進し、学習成果の発表や意見交換をする場に積極的に参加する。</li> <li>・大学や産業界等と連携して実践的な職業教育を推進し、三重の産業で活躍する人材を育成する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢と感動の実現」を合言葉に、教職員が自ら研修し、学習内容の充実や学力向上につながるよう授業改善に努める。</li> <li>・不祥事等を絶対起こさないよう学校信頼向上委員会での取組を推進し、全教職員でより一層地域に信頼され必要とされる学校づくりに取り組む。</li> <li>・教職員が業務に充実感を得られるよう、互いに認め協力し合い共に働けるチーム久居農林を作っていく。</li> <li>・学校の課題や情報を共有し、継続的に改善するための仕組みが機能するようにする。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	<p><b>(1) 生徒が主体となるような授業を実践</b></p> <p>【活動指標】 わくわく農林塾を農業・家庭学科各コース2回以上実施</p> <p>【成果指標】 生徒への事後アンケートにより自分の成長を感じたという回答: 85%以上</p> <p><b>(2) 生徒による授業評価を実施</b></p> <p>【活動指標】 生徒へのアンケートにより授業満足度を把握</p> <p>【成果指標】 授業がわかりやすいという回答:85%以上</p>	<p>(1)【活動指標】 農業科は動物コース以外の 5コースで実施。生活デザ イン科は食生活コースのみ実 施。</p> <p>【成果指標】 農業科100.0% 生活デザイン科%87.5%</p> <p>(2)【活動指標】 生徒へのアンケートを実施</p> <p>【成果指標】 1年生 93.4% 2年生 90.3% 3年生 91.1%</p>	◎
キャリア教育 の充実	<p><b>(1) 進路ガイダンスを充実させる</b></p> <p>【活動指標】 各学年2回</p> <p>【成果指標】 生徒満足度95%以上の維持</p> <p><b>(2) 生徒が主体的に進路を選択し、実現させる力を養う</b></p> <p>【活動指標】 生徒の主体性の涵養や自己理解の深化、自己肯定感の向上に 向けて、インターンシップや担任面談、進路ガイダンス等を活用 するとともに、進路実現に繋がる、面接や履歴書等の指導を充実 させる。</p> <p>【成果指標】 就職内定者数(率)年内95%以上</p>	<p>(1)各学年2回ずつ進路ガ イダンスを実施し、指標は達 成することができた。進路ガ イダンスの内容は、学習習 慣の定着、進路選択、進路 決定等につながるものとし た。また、ガイダンスの生徒 満足度は1年97.5%、2年 93.3%、3年98.1%となり、 成果指標をほぼ達成でき た。</p> <p>(2)各コースや学科に よるインターンシップや 現場見学会、出前授業、 講演会等の取り組みや全 教職員による面接指導等の 進路指導が充実し、活動 指標は概ね達成できた。 また、就職内定率年内 99.2%となり、成果指標 も達成できた。</p>	

<p>生徒指導の 充実</p>	<p><b>(1)服装・頭髪等の身だしなみを整える</b>  <b>【活動指標】</b>  頭髪・服装指導 年間 8回実施  全校集会による声かけ  <b>【成果指標】</b>  頭髪再指導が5%以内&lt;年度最終&gt;</p> <p><b>(2)いじめを許さない学校づくり</b>  <b>【活動指標】</b>  ラポール(いじめ)アンケート 年間 3 回実施  面談週間 年間 3 回実施  声かけ週間 第 3 週年間10回実施  <b>【成果指標】</b>  いじめ解消率100%</p> <p><b>(3)生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせる</b>  <b>【活動指標】</b>  遅刻カウンター・遅刻カードの活用・生活習慣の改善を目的とした特別指導・生徒会主催の朝のあいさつ運動の実施  <b>【成果指標】</b>  学校全体の遅刻の総数を 700 以下(全校生徒数以下)</p>	<p>(1)頭髪・服装指導は予定通り年間8回行うことができた。頭髪再指導率は、4.8%で目標は達成できた。今年度より、頭髪再指導最終日までに直して見せにこなかったものについて、全学年を一同に集め、学年生徒指導より注意をしていただいた。それにより、再指導の数は減った。</p> <p>(2)いじめ防止対策は、予定通り行った。ラポールアンケートは、機器の不具合などで予定通り回答できないものもいるが、書き込みやすいので多くの生徒が悩みや困り事を書いている。個人面談で担任が丁寧に聴き取りをしている。いじめ解消率100%達成。</p> <p>(3)遅刻の総数は1303回で年々増えている。無遅刻の生徒は昨年同様55%なので複数回遅刻する生徒への指導が課題である。</p>
<p>保健管理の 充実</p>	<p><b>(1)健康管理を充実させる</b>  <b>【活動指標】</b>  生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高め、健康管理に対する指導を行う。  <b>【成果指標】</b>  すべての検診について受診100%にする。</p> <p><b>(2)相談活動を充実させる</b>  <b>【活動指標】</b>  保健室での相談活動を中心に行い、スクールカウンセラーや発達障がい支援員と連携する。  <b>【成果指標】</b>  スクールカウンセラーによる相談を6時間×34回実施する。  発達障がい支援員を月6時間招聘し、生徒の学校生活への不安を取り除く手助けをする。生徒のアンケートによる満足度70%以上にする。</p>	<p>(1)すべての検診において、長期欠席者を除き、全員受診することができた。また要精密検査の中で最も重要な心臓検診、腎臓検診対象生徒については、専門機関への受診率が100%であり、健康管理に対する意識づけができた。</p> <p>(2)保健室の健康相談とスクールカウンセラーや発達障がい支援員の活用により相談活動を充実できた。友人関係や家庭状況、学校生活など不安を抱えている生徒もいるため継続した支援をする必要がある。</p>

	<p><b>(3) 命とからだを大切にすることを育む教育活動を充実させる</b></p> <p><b>【活動指標】</b> 生徒向け研修会等を実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b> 学年別で各年間1回実施。満足度80%にする。</p>	<p>(3) 性教育講話を行うことで保健指導を充実させることができた。生徒の90%以上が内容に満足しており、感想に「授業では聞けないことを詳しく説明してもらって良かった。必要な知識なのでこれから役に立てていきたい。」という意見が多かった。</p>
--	--	---

### 改善課題

#### ○学習指導の充実

##### (1) 生徒が主体となるような授業を実践

・新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、昨年度より多くのコースで実施できた。来年度は学校全体の取り組みとして実施していきたい。

##### (2) 生徒による授業評価を実施

・今年度、ホームルーム教室に遮光カーテンを設置した。一人一台端末や電子黒板などのICT機器を活用した授業が進められている。来年度は教員間で実践例を共有するために校内で授業を見学できる機会を作っていきたい。

#### ○キャリア教育の充実

・今年度の3年生においては就職者が全体の55%、進学者が45%であった。進学希望者が増えているため、学力向上のための取り組みも考える必要がある。

#### ○生徒指導の充実

・遅刻を繰り返す生徒への指導が課題である。現在、遅刻10回で保護者召還、8時登校5回を行っているが、遅刻が10回になってから指導するのでは遅い。それまでの指導は各学年で対応していただき、遅刻5回でなんらかの指導をしている。時間を守るということは、その約束事や、約束した人を大切にするという事。遅刻をしてくるのは、学校を大切にしていない証拠である。怠け学が起こったり、物が壊されたりするのも、学校を大切にしない証拠である。我々教員が授業を大切に、工夫・改善して生徒達の学ぶ意欲を向上させることや、学校行事をみんなで取り組むことで充実感を得ることが、学校を大切にすることを育てることになる。久居農林高校を誇れる母校にしていくことが、改善につながる。

#### ○保健管理の充実

・相談活動の充実のため、保健室以外の部屋にできれば2名体制で相談係が常駐し、いつでも人目を気にせず生徒が相談できるような環境を整える。

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

組織運営	<p>○チーム久居農林の分掌、学科、コース、学年間の連携、情報交換、情報共有に努める。</p> <p><b>【活動指標】</b> 教職員アンケートにより職員の満足度を把握する。</p> <p><b>【成果指標】</b> 昨年度より情報共有が進んだという回答 70%以上</p>	分掌、学科、コース、学年間の連携、情報共有92%	◎
資質向上の取組、信頼される学校づくり	<p>○教職員の各種研修会を実施し、指導力向上に努める(コンプライアンス研修、ICT研修等)</p> <p><b>【活動指標】</b> 各学期1回</p> <p><b>【成果指標】</b> 参加者の満足度 85%以上</p>	○外部講師によるコンプライアンス研修、ICT研修の実施 満足度82%	
情報発信	<p>○情報発信を積極的に行う</p> <p><b>【活動指標】</b> 学校HPの充実 学校のPR(新聞報道、テレビ等)</p> <p><b>【成果指標】</b> 報道 20 件以上・ホームページ月 3 回以上の更新</p>	<p>○学校HPについて、各コース・各部から授業や行事等の取組内容を随時更新。</p> <p>○新聞等報道・・・21件 HP・・・月3回以上更新</p>	
地域との連携	<p>○わくわく農林塾の実施</p> <p><b>【活動指標】</b> 生徒へのアンケートにより満足度を把握する</p> <p><b>【成果指標】</b> 参加してよかったという回答 85%以上</p>	<p>農業科は動物コース以外の5コースで実施。生活デザイン科は食生活コースのみ実施。</p> <p><b>【成果指標】</b> 農業科100.0% 生活デザイン科%87.5%</p>	
働きやすい職場環境づくり	<p>○総勤務時間の縮減</p> <p>原則、毎月第1第3月曜日を定時退校・ノー部活デーとする。 各定期考査で1日(半日単位も可)以上の年休を取得する。 各定期考査中は定時退校とする。 閉校日を設定する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した日の定時に退校できた教職員の割合:80%以上</li> <li>・予定通り休養日を実施できた部活動の割合:95%以上</li> <li>・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合:80%以上</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数:0人</li> <li>・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数:0人</li> <li>・1人当たりの月平均時間外在校等時間:20時間以下</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数:12日以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校出来た教職員の割合:72%</li> <li>・休養日を実施できた部活動の割合:99%</li> <li>・60分以内に終了した会議の割合:91%</li> <li>・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数:未定</li> <li>・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数:167人</li> <li>・1人当たりの月平均時間外在校等時間:28時間</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数:平均12日(全て12月末調査より)</li> </ul>	

## 改善課題

### ○組織運営

・生徒・教職員共に「安全・安心」な学校づくりが重要であると考えます。その要素として、教職員間での情報共有は大きな位置づけであり、会議のみならず、普段から教職員同士が十分にコミュニケーションをとれるような職場環境が必要である。

### ○資質向上の取組、信頼される学校づくり

・教育公務員としてコンプライアンスを遵守していくことは当然のことであり、毎年の研修を継続して行っていく事が重要である。また、ICTを活用した授業計画や、指導と評価についても、教科の特性に応じた取組を進める必要がある。

### ○情報発信

・本年度は、幼稚園や小学校や三重県警察など外部と連携をする機会が増え、その分、学校PRをする機会も増加した。また、その様子を新聞やテレビ局に取り上げてもらうことがあり、生徒の輝く姿をたくさんの県民の皆さんにも見てもらうこともでき、非常によい情報発信となった。次年度も継続してできる限り継続して取り組む事が必要である。

### ○地域との連携

・新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、昨年度より多くのコースで実施できた。来年度は学校全体の取り組みとして実施していきたい。

### ○働きやすい職場環境づくり

・時間外労働時間が月45時間を超える教職員の超過時間の内容については、さまざまな要因があることから、早急に解決することは難しいと考えるが、特に多い要因から解消できるよう組織として取り組む事が必要である。

## 5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	<p>○学習指導の充実</p> <p>・わくわく農林塾は、非常に良い取組である。次年度も引き続き実施して頂きたい。生徒が「教える」という経験することは大きな「学び」につながるものである。</p> <p>○キャリア教育の充実</p> <p>・未就職者への対応として、ハローワークを学校へ呼ぶことも検討してみてもどうか。</p> <p>○生徒指導の充実</p> <p>・遅刻者が多い傾向があるが、在学期間中に生活習慣をしっかりと整えておかないと、社会へ出てからもかなり厳しいのではないかと。遅刻をすることが、他人に迷惑をかけることだとしっかりと認識させることが重要である。</p> <p>○情報発信</p> <p>・生徒募集に苦勞していることがうかがえるが、情報発信の方法として中学生等へしっかりとアプローチできるインスタグラムなどを活用することが必要ではないか。ホームページやフェイスブックでは視聴する年齢層が高い。</p>
--------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>・わくわく農林塾は、生徒が同じ地域の保・幼・小・中学生とともに活動したり、自ら学んだ内容を教えたりすることを通じて、学びの理解を深めるとともに、保・幼・小・中学生が高校での学びを身近に感じることができる機会であるため、次年度も継続する。</p> <p>・生徒が自己の将来とのつながりを見通しながら職業意識を身につけられるよう、地域と連携して、企業での実習や専門家による指導、商品開発など、実践的な専門教育を推進する必要がある。</p>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、「今何をすべきか」主体的に考え行動できるよう「自己指導能力」を身に付けさせる必要がある。</li> <li>・思春期の多感な生徒の複雑な心理や人間関係を理解するのは困難を極める。また、昨今はスマートフォンやインターネットの発達によって、教職員の目の行き届かない仮想空間でのトラブルも増加している。様々な悩みを抱える生徒に対応するため、教育相談体制を充実する必要がある</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年定員割れが続いている。入学定員を確保するために、現状をしっかりと分析・把握し、今後どのように対応していくのか、早急に対応策を検討する必要がある。また、今後の生徒減に向け、設置学科やコースをどのようにしていくかの検討も必要である。</li> <li>・教科指導や生徒指導など、教職員としての本来の職務を遂行するためには、教職員間の学び合いや支え合い、協働する力が重要である。日頃から教職員同士が気楽に話ができ、学び合うことのできる「同僚性」を高めていく必要がある。</li> <li>・一人一台端末の整備が進む中、教職員が積極的にICT機器を活用できるよう研修の機会を持つ必要がある。</li> <li>・本校の魅力がより中学生に伝わるよう、新たな媒体を用いた情報発信についても検討する必要がある。</li> <li>・総勤務時間の縮減については、過重労働も多く改善傾向には至っていない。学校運営上の課題を明らかにし、教職員の意見をもとに業務を改善する仕組みを構築し、働きやすい職場環境づくりに取り組む必要がある。</li> </ul>